中学校　音楽　部会

部会長名　香春町立香春思永館　校長　安藤　志保美
実践者名　添田町立添田中学校　教諭　長野　友希

１　研究主題

「思考力・判断力・表現力を育む音楽科学習指導の工夫」
～　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して　～

２　主題設定の理由

（１）社会的な要請と教育の動向から

情報化やグローバル化といった急激な社会的変化の中で、子どもたちには持続可能な社会の創り手となるために必要な力を身につけさせることが、これからの学校教育に求められている。平成２９年に告示された学習指導要領では、これまでの学校教育の蓄積を生かし、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質･能力を一層確実に育成することを目指している。そのため、目標及び内容が、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理された。

音楽科では、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図を持って表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活との関わりに関心を持って、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育むこと等に重点を置いて、その充実を図ってきた。一方で、感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくこと、我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくこと、生活や社会における音や音楽の働き、音楽文化についての関心や理解を深めていくことについては、更なる充実が求められている。

これまでの成果やこれからの課題に適切に対応するには、質の向上や深い学びが重要であり、子どもたちが「どのように学ぶか」という「主体的・対話的な学び」の実現に向けた授業改善を図ることが重要であるため、田川郡音楽部会として本主題を設定した。

（２）生徒の実態から

本校の生徒は、音楽科の学習活動に意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、自分たちの思いや作者の思いを表現するためにどのような歌い方で歌うとよいか、どのような表現の工夫ができるか仲間と協働しながら追求している生徒がいる一方、作者の思いを読み取れない生徒や、歌詞から読み取った思いや自分のイメージを音楽と関連付けきれず、表現することの楽しさを見いだせていない生徒もいる。また、歌唱や演奏をすることは好きだが作者の思いを思考せずに音楽活動を行う生徒や、教師の助言のみで受け身になっている生徒、苦手意識が強く自分の思いを表現したり発表したりすることは恥ずかしいと感じている生徒もいる。

これらのことから、他者と協働して思考する時間を確保すれば、作者の思いや意図を理解し、積極的に音楽活動に取り組む生徒が育つと考えた。このことは「主体的・対話的で深い学び」を実現し、これからの社会を心豊かに生きてく生徒に求められている資質・能力を育

成する上で意義深いと考える。

3　主題の意味

（1）思考力・判断力・表現力を高める音楽科学習指導

曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わってきくことができるようにする力である。（1年生は、音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながら美しさを味わって聴くことができるようにする力である。）

（2）音楽科における「主体的・対話的で深い学び」

主体的・協同的に表現及び鑑賞の授業に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養うことである。（1年生は，主体的・協同的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養うことである。）

4　研究の目標

本研究の目的は、音楽表現をより豊かにするために、どのようにしたら思考力・判断力・表現力が高まるのかを明らかにすることである。そのために交流活動を通して主体的な学びにつながる方策を見いだすことをねらっていく。

5　研究仮説

表現活動において、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受させるための適切な支援を行ったり、グループや全体での交流を通して、自分の考えと友だちの考えを比べさせ違った考えに触れたりする活動を行えば、生徒は自分の考えをさらに進化させ思考、判断し、思いを音楽的根拠に基づいて表現できる力が高まるだろう。また、自分たちで考え、工夫し、表現をつくりあげていく経験を重ねることが、自分たちの力で更にもっと豊かな表現をしていきたいという主体的な学びにつながるであろう。

6　研究の計画（授業の計画）

（1）題材名　「仲間とともに、表情豊かに合唱しよう」

教材名　「輝くために」（若松歓　作詞・作曲）

（2）題材の目標及び指導計画

題材	合唱「輝くために」	総時数	5時間	時期	9月
	○曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。（知識及び技能）				

単元の目標	○音色、旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。 （思考力、判断力、表現力等） ○曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協同的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 （学びに向かう力、人間性等）

次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点(働・援)
1	1	・正しい音程、リズムで歌えるようになる。	・範唱ＣＤやピアノを使って練習する。	・パートリーダーを中心に音程やリズムに注意して音取りをさせる。
	2	・歌詞の内容を理解し、歌詞が訴えているメッセージを自分なりに理解する。	・曲から受ける印象を出し合い歌詞に込められた思いを考える。	・作者がこの曲を作った時のエピソードを伝え、歌詞に込められた思いを考えさせる。
2	1 本時	・表現の工夫を考える。	・音楽記号を確認し、表現の工夫を考え練習する。	・楽譜の音楽記号を確認させ、音楽的表現から考えさせる。 ・実際に歌い試し、工夫を感じ取らせる。
	2	・表現を工夫して歌う。	・創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら練習する。	・前時の内容を再確認させ、各パートの役割と全体の響きとの関わりを意識しながら歌うように促す。
3	1	・創意工夫を生かし、ハーモニーを感じながら歌う。	・合唱を完成させる。	・自分たちの歌を録音し、評価をする。

7

指導の実際

（１）本時の主眼

合唱において、強弱や各声部の重なり方についての作曲者の意図や歌詞の内容との関わりを考え、表現を確かめる活動を通して、イメージや思いを伝える音楽の構成要素の働かせ方を工夫して表現しようとする。

（２）授業仮説

表現領域において、イメージや思いを伝える音楽の構成要素の働かせ方を工夫して表現しようとすれば、強弱や各声部の重なり方についての作曲者の意図や歌詞の内容との関わり方を理解する生徒が育つであろう。

（３）準備

教師：①楽譜　②ワークシート　③参考資料「心を一つに」プリント　④ＣＤデッキ
⑤練習用ＣＤ　⑥タブレット

生徒：⑦楽譜　⑧振り返りプリント

（４）展開

	学習活動・内容＜生徒の反応＞	○指導上の留意点　※CD 層への手立て　◇評価規準(方法)	配時
導入	１．前時の自分たちの合唱を聴き、課題を再確認し、本時のめあてを確認する。 ・声の大きさ ・音程 ・全体のバランス ・音符や休符の長さ	○作曲者の思いと、自分たちが目指す合唱への思いを比べ、共感するところを見つけ、めあてを設定する。	10
	めあて　作曲者は、伝えたい思いをどのように音楽で表現しているか考え、自分たちの表現に生かそう。		
展開	２．どのように歌えば作曲者の思いや曲の雰囲気を表現できるのか、工夫を考える。 （１）個人で考える。 （２）各パートで交流しまとめる。 ・斉唱の部分は弱く歌う ・二部合唱の部分はサビに向かってだんだん強くしていく ・三部合唱の部分は一番盛り上がるところ、訴えたいところなので、言葉をはっきり歌う ・楽譜にある強弱を守る ・他のパートとのバランスを考えて歌う （３）全パートの考えを全員で確認する。	○聴き手に作曲者の意図や曲の雰囲気が伝わる表現になるように、音楽的表現から考えさせる。 ○個人で考えた工夫は鉛筆で、パートでまとめた工夫は色ペンでワークシートに記入させる。 ※「ヒントカード」や「心を一つに」プリントを参考に考えさせる。 ◇曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりを生かして歌唱表現を創意工夫しようとしている。 （ワークシート【思考・判断・表現】） 歌詞の内容と強弱記号やフレーズ、声の音色、全体の響き等の関連を読み取り、表現の方法を記述できている。	3 4 3
	３．創意工夫したい歌い方を具体的にどのように表現すればよいか考えながら、パート練習を行う。		18
	４．パート練習で工夫した表現方法で合唱する。	○自分たちの合唱が、作曲者の思いが伝わる合唱になっているか確認させるために、録音する。	4
終末	５．作詞者・作曲者の思いが伝わる合唱になっているか、自分たちの合唱を聴いて確認する。	○次時の活動につなげられるように、良くなった点や課題点を聴き取らせる。	5

振り返り	（例）強弱記号には作曲者の意図があることが改めて分かった。歌詞の意味を考えながらこれからの練習でも意識して 作曲者の思いを表現するために強弱に まり聞こえなかった。声量のバランスを		3

【パート別での話合い】

ト別練習】

【振り返りの時間】　　【実際の板書】

8　研究のまとめ

本題材において、思考力・判断力・表現力を育むために次のような交流活動の手立てをとっ

た。

○　現時点での合唱が聴き手に思いが伝わるような合唱になっているのか自分たちの課題について確認させる。

○　歌詞の内容と音楽記号を確認し、作曲者の意図を考えさせる。

○　個人で考えた工夫を学習プリントで書かせた後、各パートで交流し工夫をまとめさせる。

○　具体的にどのような工夫をすれば思いつかない生徒には、ヒントカード等を参考にさせる。

○　グループや全体での交流を行い、友だちの考えと自分の考えを比べさせ、新たな考えを知ることで、自分の考えを進化させる。

○　パートリーダーを中心にリーダーの指示のもと、パート練習を繰り返し行わせる。

○　録音を行い、練習前後の合唱を聴き比べさせ、表現を工夫して歌うことで合唱がより豊かになっていくことに気付かせる。

9　成果と今後の課題

○　録音を聴くことで、自分たちの演奏の課題が客観的に確認することができた。

○　ヒントカード等を参考にさせることで、音楽の要素と関連付けて考えることができていた。

○　パート別に表現の工夫を考えることで、曲にふさわしい表現とともに各パートの役割も考えることができていた。

○　パートリーダーを中心に自分たちで表現の工夫を考え、練習を進める活動を通して、より一層表現活動への意欲が高まり、主体的に活動する場面が多く見られるようになった。

●　話合い活動に時間がかかり、歌う活動の時間が少ないことがあった。歌う活動時間を十分に取れるように、学習プリントや取り組みの方法をさらに工夫していく必要がある。

●　パートリーダーが練習を進めたり、意見をまとめたりすることはできていたが、パート別での練習時に、率先して課題を伝え、その課題をパートのみんなで共有できるようにする必要がある。

◎　参考文献

・文部科学省　「中学校指導要領解説　音楽編」平成２９年７月